

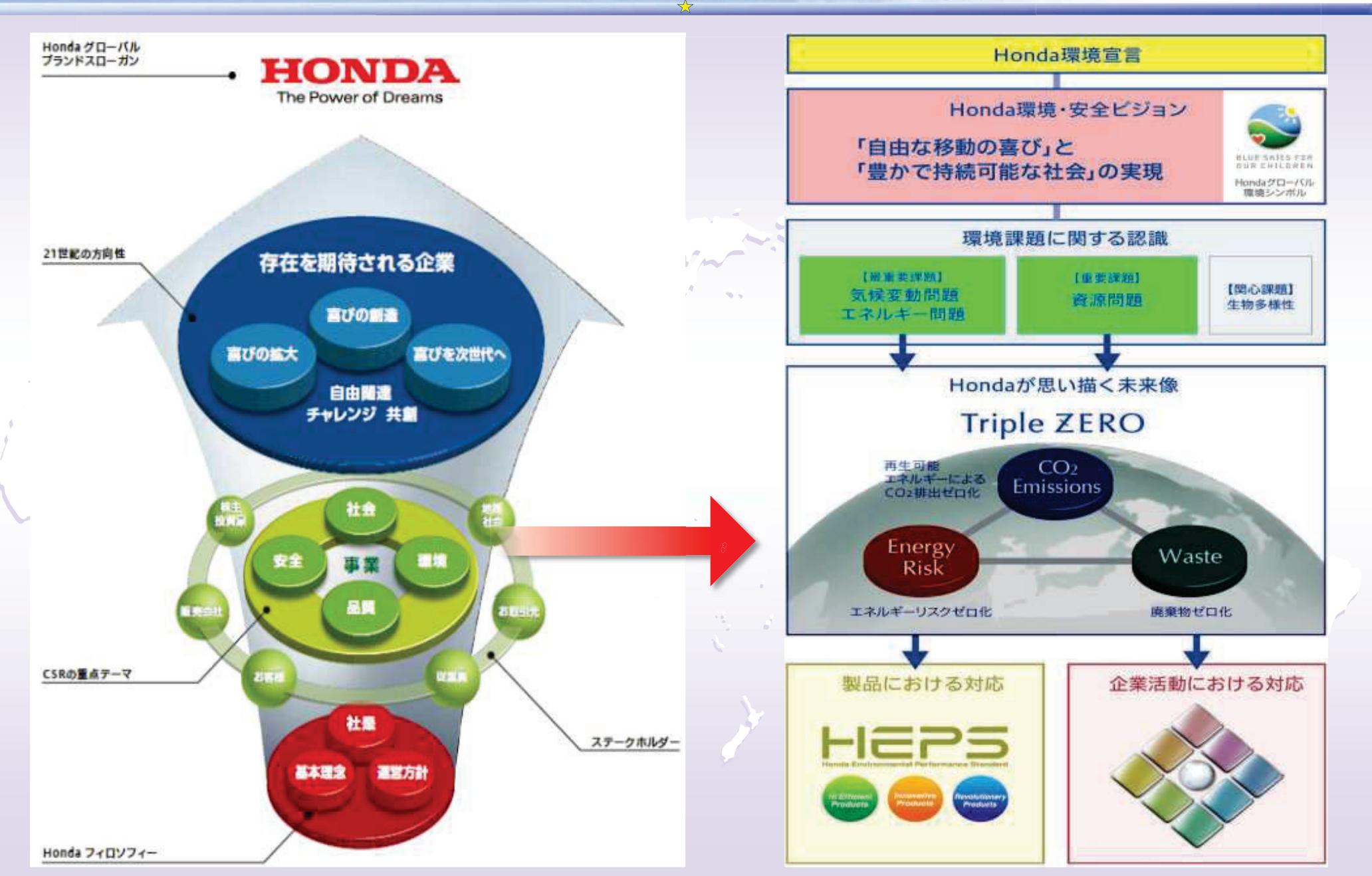
# Hondaの環境取り組み

## 2020年環境ビジョン



BLUE SKIES FOR  
OUR CHILDREN

# Honda 環境問題への考え方



## Honda環境宣言

地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、Hondaは、すべての企業活動を通じて、人の健康の維持と地球環境の保全に積極的に寄与し、その行動において先進性を維持することを目標として、その達成に努めます。

以下に、私たちの日々の活動にあたって従うべきガイドラインを示します。

1. 私たちは、商品の研究、開発、生産、販売、サービス、廃棄というライフサイクルの各段階において、材料のリサイクルと、資源、エネルギーの節約に努めます。
2. 私たちは、商品のライフサイクルの各段階で発生する廃棄物、汚染物質の最少化と適切な処理に努めます。
3. 私たちは、企業の一員として、また社会の一員として、人の健康の維持と地球環境の保全に努力することが重要であると認識し、積極的に行動することに努めます。
4. 私たちは、事業所の活動が、それぞれの地域の人たちの健康と環境や社会に対し及ぼす影響について認識し、社会から高い評価をいただけるように努めます。

1992年6月制定・発表

すべての企業活動  
において

ライフサイクルで節約

廃棄物の適切な処理

社会の一員であることを  
認識し積極的に行動

社会から高い評価を  
頂けるように努める

## 「自由な移動の喜び」と 「豊かで持続可能な社会」の実現

Realizing “the joy and freedom of mobility” and  
“a sustainable society where people can enjoy life”

Hondaは、2020年に向けて「良いものを早く、安く、低炭素でお客様にお届けする」という方向性を定め、また、すべての人が、心から安心して、どこへでも自由に移動することができる社会をつくることを目指して、「Honda環境・安全ビジョン」を定めました。このビジョンには、パーソナルモビリティーに関わる製品・サービスを通して、お客様に感動を提供し続け、社会の永続的な発展と調和に貢献していきたい、というHondaの強い想いが込められています。

**Safety for Everyone**  
すべての人の安全をめざして

Hondaグローバル安全スローガン・ロゴ

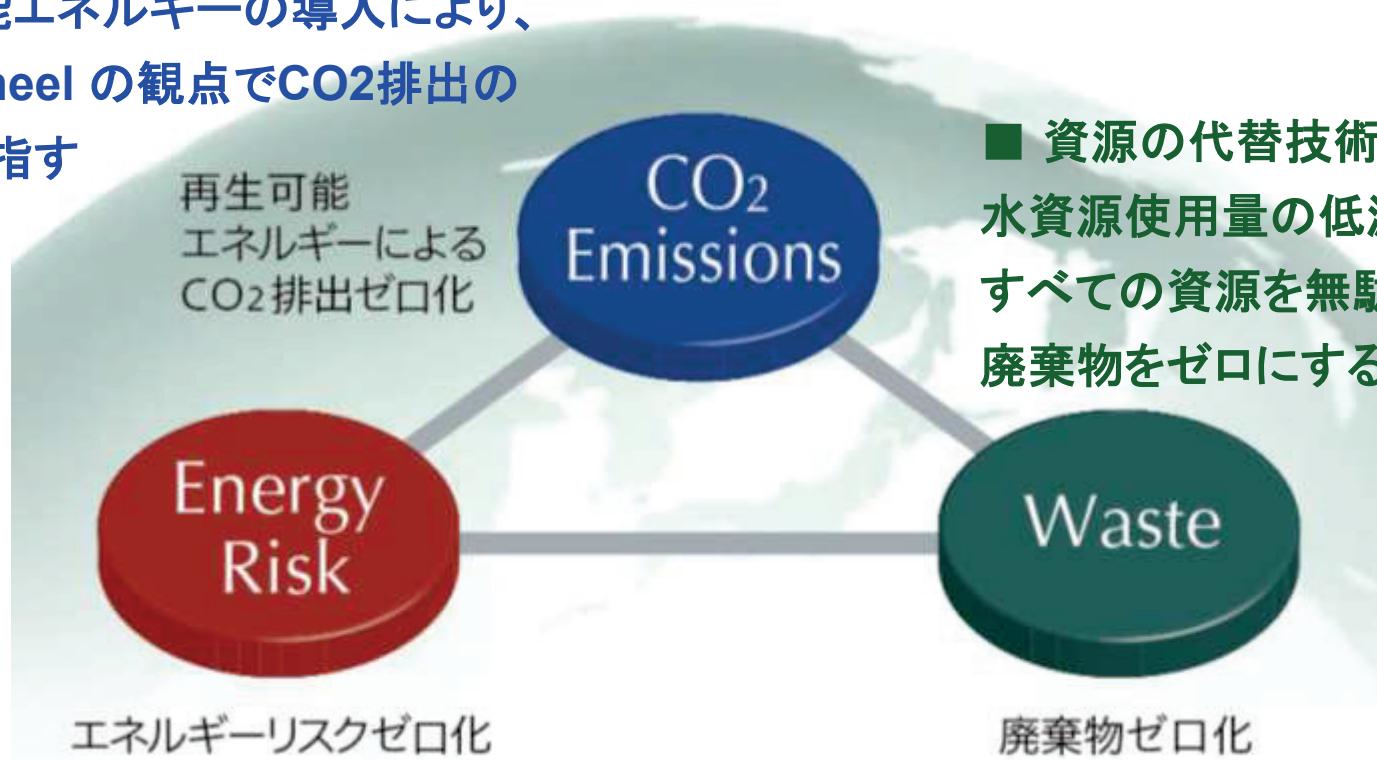


BLUE SKIES FOR  
OUR CHILDREN  
子供たちに青空を

Hondaグローバル環境シンボル

# Triple ZERO

- 再生可能エネルギーの導入により、  
Well-to-Wheel の観点でCO2排出の  
ゼロ化を目指す



- 資源の代替技術、3R技術の進化、  
水資源使用量の低減などにより、  
すべての資源を無駄なく循環させて  
廃棄物をゼロにすることを目指す

- エネルギーマネジメント技術の進化による  
環境管理の効率化で、エネルギーリスクのゼロ化を目指す

# 2020年 環境負荷低減目標

- ・「気候変動問題」「エネルギー問題」に対応するためには製品から排出されるCO2排出低減が最も重要と考え、新たに2020年を目標年とした「2020年製品CO2低減目標」を策定しました。
- ・2020年に向けては、これまでの方向性を継承しつつ、製品燃費・CO2燃費規制の強化など社会の要請の高まりを受け、それに先駆ける低炭素技術の更なる革新と、その普及拡大を加速していきます。

## 2020年製品CO2低減目標(2000年比)



NC750S



Accord PHEV



HLS2511

Hondaの製品から  
排出される  
CO<sub>2</sub>の全世界平均値

30%低減  
g/km当たり

30%低減  
g/km当たり

30%低減  
kg/1時間当たり

# 気候変動情報の把握と開示

(「GHGプロトコル・イニシアティブ」はWRIとWBCSDが共催にて概算方法を定義)

GHG(温室効果ガス)

CO<sub>2</sub>

CH<sub>4</sub>

N<sub>2</sub>O

HFC<sub>5</sub>

PFC<sub>5</sub>

SF<sub>6</sub>

Scope3  
その他の排出  
(上流)

カテゴリー1  
購入した  
製品・サービス

カテゴリー2  
資本財

Scope1・2に含ま  
れない燃料・エネ  
ルギー関連の活動

カテゴリー4  
輸送・流通  
(上流)

カテゴリー5  
事業から発生  
する廃棄物

カテゴリー8  
リース資産(上流)

カテゴリー7  
従業員の通勤

カテゴリー6  
出張

Scope2  
間接排出

購入電力  
・蒸気など

Scope1  
直接排出

企業の施設

企業の車両

Scope3  
その他の排出  
(下流)

カテゴリー9  
輸送・流通(下流)

カテゴリー10  
販売した  
製品の加工

カテゴリー11  
販売した  
製品の使用

カテゴリー12  
販売した製品  
の処理

カテゴリー15  
投資

カテゴリー14  
フランチャイズ

カテゴリー13  
リース資産(下流)

企業活動 の上流

企業活動

企業活動 の下流

GHG算定・報告のデファクトスタンダード「GHGプロトコル・イニシアティブ」は、  
3つの範囲(スコープ)に区分して排出総量を把握・計上する

# 2013年度 企業総排出量

## ● Honda のバリュー・チェーン全体における温室効果ガス排出量

	2011年度	2012年度	2013年度
スコープ1 <sup>※4</sup> 企業活動による直接排出	124万t-CO <sub>2</sub> e	141万t-CO <sub>2</sub> e	141万t-CO <sub>2</sub> e
スコープ2 <sup>※4</sup> エネルギー利用による間接排出	296万t-CO <sub>2</sub> e	354万t-CO <sub>2</sub> e	380万t-CO <sub>2</sub> e
スコープ3 <sup>※4</sup> その他の間接排出	2億2,086万t-CO <sub>2</sub> e	2億7,096万t-CO <sub>2</sub> e	2億7,595万t-CO <sub>2</sub> e
バリュー・チェーン全体の排出 (スコープ1、2、3合計)	2億2,506万t-CO <sub>2</sub> e	2億7,591万t-CO <sub>2</sub> e	2億8,116万t-CO <sub>2</sub> e
このうち			
Hondaの企業活動による排出 (スコープ1、2合計)	420万t-CO <sub>2</sub> e	495万t-CO <sub>2</sub> e	521万t-CO <sub>2</sub> e
製品使用時の排出 (スコープ3・カテゴリー11 <sup>※4</sup> )	1億9,588万t-CO <sub>2</sub> e	2億2,595万t-CO <sub>2</sub> e	2億2,814万t-CO <sub>2</sub> e
スコープ3・カテゴリー11 以外の排出	2,498万t-CO <sub>2</sub> e	4,501万t-CO <sub>2</sub> e	4,781万t-CO <sub>2</sub> e

スコープ3の算定においては、推計割合の大きいカテゴリーについて、データ収集の推計精度向上のため、対象範囲を拡大したり、算出方法の精度を向上させました。

## ● Honda の排出する温室効果ガスの内訳と推移

